

鳥取県経済同友会東部地区 8 月例会報告

1 日 時 令和 7 年 8 月 2 7 日 (水) 1 8 : 0 0 ~

2 場 所 ホテルニューオータニ鳥取「鳳凰の間」

3 講 演

(1) 「米づくりからの酒造り」

有限会社太田酒造場 代表取締役社長 太 田 章 太 郎 氏

(2) 「とっとりの酒の未来」

株式会社谷本酒店 代表取締役社長 谷 本 暢 正 氏

4 出席者 会員 2 2 名

5 講演要旨

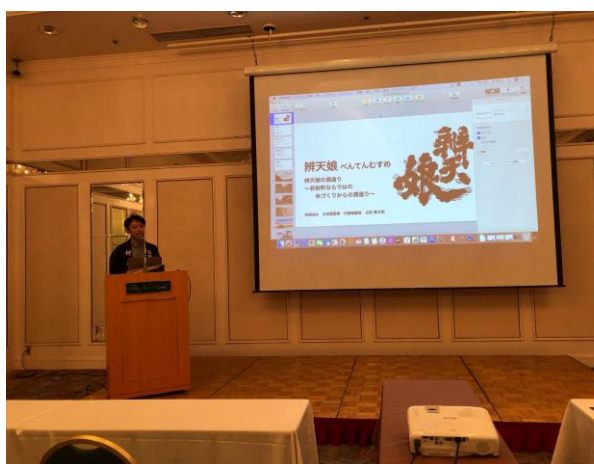
(1) 太田章太郎氏の要旨

太田酒造場は 1 9 0 9 年、鳥取県八頭郡若桜町で日本酒造りを始めた。当時は、出雲杜氏をはじめとする蔵人集団が酒造りを担当していた。しかし、1 9 9 2 年杜氏の高齢化や人員不足から、酒造りを委託し、休蔵することとなった。太田章太郎氏は、大学卒業後、地元の銀行に勤めていたが、家業を継ぐことにした。

2 0 0 2 年に酒造を再開した。鳥取県農業試験場が開発した酒米「鳥姫」は、太

田酒造場の酒「辨天娘」専用としている。太田酒造場で造る酒の原料は、すべて若桜町内産の酒米である。また、酒粕を使った、大根やきゅうりの奈良漬けを商品化している。

日本酒造りは、環境負荷が少ない。それは、酒米のもみ殻や糠は、肥料や家畜の餌となり、米を削った白糠は、せんべいの材料となるからである。さらに、酒を入れる一升瓶のリサイクル率は、年々低下しているものの 2 0 2 3 年で 7 4 . 5 % である。



【講演する太田章太郎氏】

(2) 谷本暢正氏の要旨

鳥取県内の酒蔵は、高度経済成長期に 4 0 社あったが、現在は 1 7 社に減少している。

鳥取県は因幡と伯耆の二つの国から、成り立っており、因幡は武家文化、伯耆は商人文化の影響を受けている。人の交流が盛んな伯耆地方の方々は、世の中の動きに敏感で、同じ米を使用しても味は流行により、酒質を変えていった傾向が



【講演する谷本暢正氏】

がある。

鳥取県の酒米「強力」と岡山県が産地の酒米「雄町」は、伯耆町くろぼく土壌で生まれている。「強力」と「雄町」は元は同じ品種だとの説がある。酒米として全国生産量1位の「山田錦」は、「雄町」系の父と「山田穂」を母として誕生した。鳥取県内では、一度作られなくなった「強力」が見直され、酒米の原産地復活を願い、県内各地で栽培され始めている。

鳥取県内の水の特徴はおおまかに、西部は軟水、東部は超軟水（岩美の高田酒造場は中硬水）である。同じ酒米で醸造した日本酒でも仕込む水によって酒の味が異なる。

（３）懇親会

講演に続く懇親会では、乾杯を太田酒造場の地酒「辯天娘」で行うとともに、会場内に設置した地酒コーナーに①辨天娘（上撰）、②瑞泉（扁平精米純米吟醸 山田錦）、③辨天娘（純米吟醸山田錦）、④辨天娘（純米吟醸）、⑤日置桜（純米吟醸伝承強力）、⑥千代むすび（純米大吟醸強力50）の6種類の地酒を用意し、講師の谷本氏と太田氏がコーナーに集まった会員に、それぞれの酒の特徴を説明しながら、飲み比べをしました。地酒の話で大いに盛り上がった懇親会となりました。